

R5 学校評価自己診断について（分析）

【R5 回答率について】

保護者 70% (44 ポイントアップ)。

教職員 100% (37 ポイントアップ)。

用紙配付と WEB 回答のハイブリッドでアンケートを実施し、安心メールでも協力を呼び掛けた。昨年度と比較して大幅な回答率アップが実現できた。

【保護者の回答について】

- ・両部門とも本校の学校の取り組みに対して理解してくださり、概ね好意的に評価してくださっていることが推察された。
 - ・「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮し、適宜改修等に努めている」が昨年度と同程度である。「わからない」の回答率も高めである。今年度、校舎やプールの大規模改修工事が無事終了し施設改修が進んだことや点検を定期的実施していることを積極的にさらに発信し、安全・安心を実感してもらえように取り組むことが必要である
 - ・「地震・火災避難訓練などの防災教育や交通などの安全教育が行われている」の肯定的評価が昨年度より 10% 向上しており、評価されている。今後も継続して取り組むことが望ましい。
 - ・新設した「学校は授業でタブレットなどの ICT 機器を使用するなど効果的な教育活動を行っている」の設問では 6 割（「わからない」という回答が 3 割）となっている。教職員による自己診断での類似設問「ICT 機器が各教科の授業や行事など、教育活動全般において活用されている」の肯定的回答は 88% となっており乖離が生じている。
- 「学校は将来の進路や職業など保護者のニーズに応じた指導を行っている」においても、教職員の肯定的回答 84% と乖離がみられる。
- ・「学校は教育情報について提供の努力を行っている」が 8 割程度にとどまっているように、情報の発信不足が一因と考えられるため、連絡帳や懇談会でのお知らせをはじめ、安心メールや学校ブログ、HP 等のデジタルツールも活用しながら、一層の理解促進に努める必要がある。

【教職員の回答について】

- ・肯定的回答が高かったものは「教職員の情報共有」「家庭との連携」「保護者へ周知するための情報発信」「人権尊重の意識をもった指導」「学校行事の工夫」「食育の推進」が高く、本校の強みや特色として情報発信も強くしながら引き続き教育活動を行っていく。
- ・肯定的回答率アップがみられたものは「系統的なキャリア教育」「快適な職場環境」「施設整備の点検・管理」である。教育課程の検討を重ねていることや、安全衛生委員会や働き方改革の取組み、大規模改修や日々の速やかな修理補修といった取組みが評価につながっていると推察される。
- ・「支援教育のセンター校的役割」「経験の少ない教職員の育成」の肯定的回答が 6 割程度となっている。
- ・センター校的役割は、実績を積み上げているものの学校全体としての効力感や校内でのフィードバックが実感できにくいことが要因と推察される。校内での支援相談と連携できる体制を構築したい。
- ・経験の少ない教職員の育成は、育成体制の整備、業務の分業化、研修機会の減少が要因と考えられる。働き方改革をすすめ、専門性の伝達や安心して相談できるような体制を構築すること必要がある。